



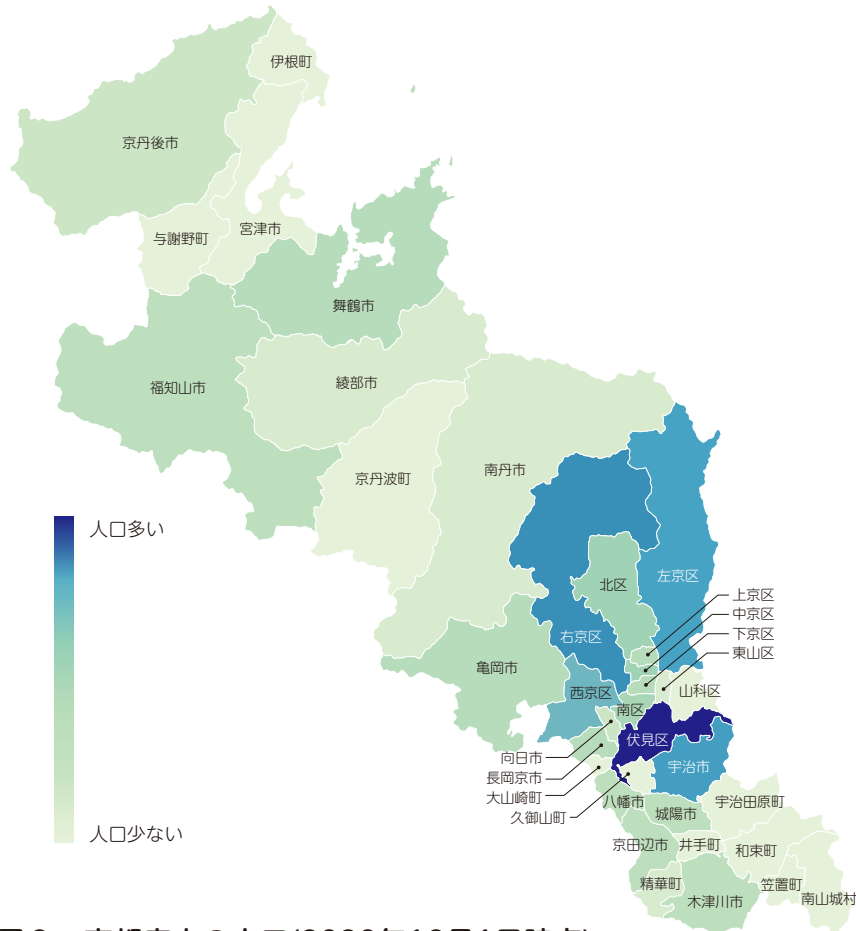
統計でみる きょうとのすがた

2022

京都府政策企画部統計課
2022年3月

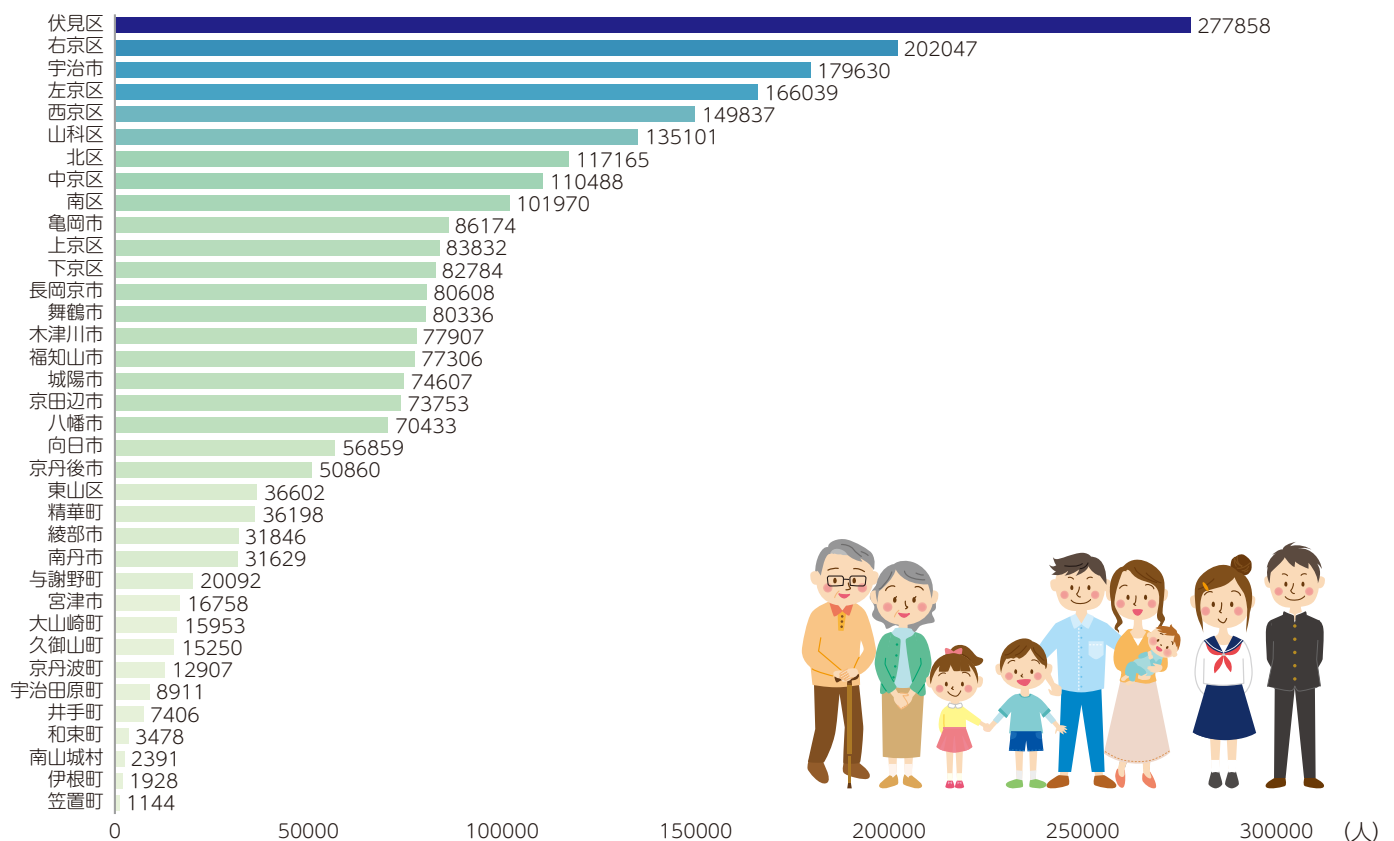
京都府の人口 -2020年国勢調査より-

図1：京都府内の人口の分布



2020年国勢調査の結果で京都府の人口をみると、2020年10月1日時点で2,578,087人となっています。市区町村別でみると、京都市伏見区が277,858人と最も多くなっています。

図2：京都府内の人口(2020年10月1日時点)

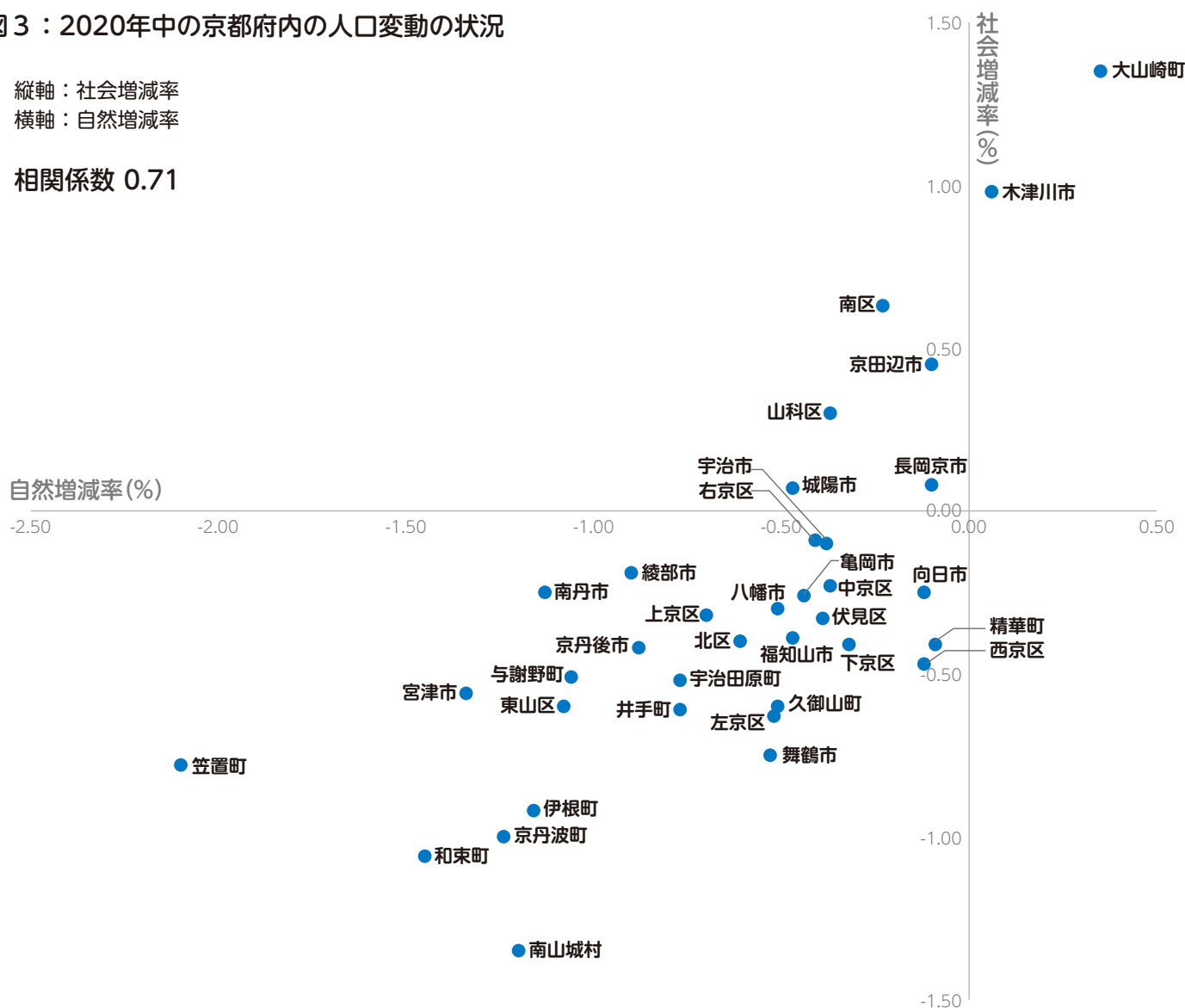


人口変動の状況

図3：2020年中の京都府内の人口変動の状況

縦軸：社会増減率
横軸：自然増減率

相関係数 0.71



人口変動の状況について、縦軸に転出入の状況を示す社会増減率を、横軸に出生・死亡の状況を示す自然増減率をとった散布図で市区町村ごとの状況を可視化してみると、大山崎町及び木津川市で、転出数より転入数が多く(社会増)、死亡数より出生数が多くなっています。(自然増)

しかし、全国的な少子高齢化の影響もあり、多くの市区町村で自然増減率がマイナスとなっています。

社会増減率と自然増減率の相関係数は0.71で、両者の間に強い正の相関関係があることがわかります。つまり、自然増減率が低いと社会増減率も低い傾向があります。

相関係数

Keyword

2変数間の関連の強さを示す指標。
-1から1までの数値をとり、1に近いほど正の関連が強く、一方が増えれば他方も増える。
逆に、-1に近いほど負の関連が強く、一方が増えれば他方は減る。0は無相関を表す。

図4：人口の推移(丹後地域)

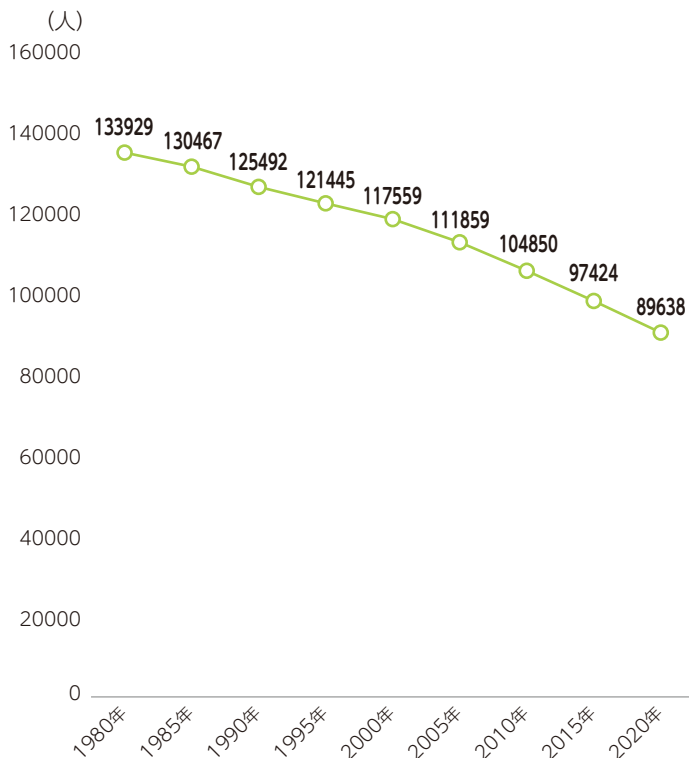
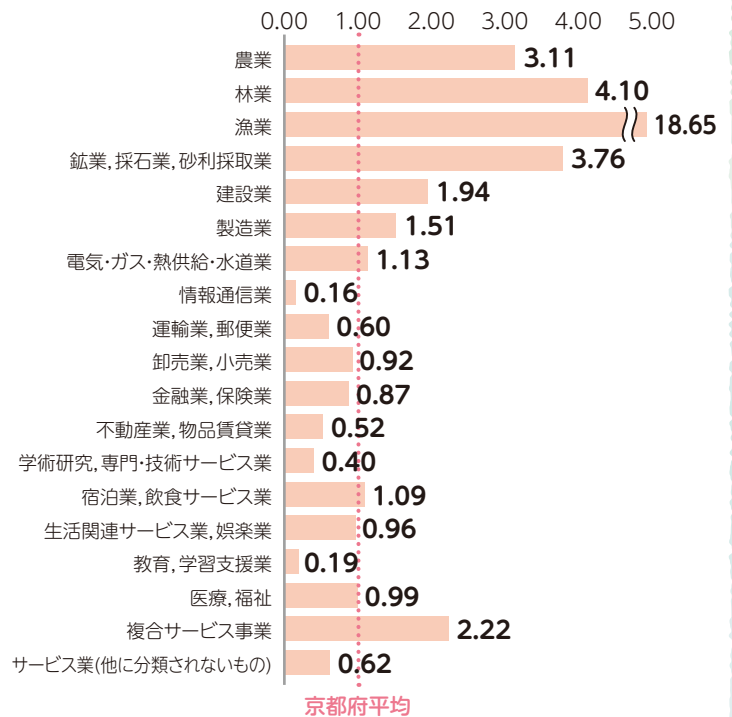


図5：産業別特化係数(丹後地域)



特化係数

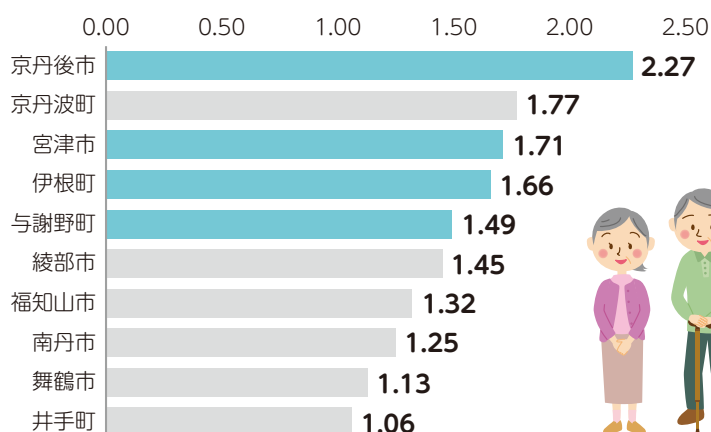
Keyword

地域の特定の分野への特化度合いを測る指標。
1.0が京都府平均を意味している。

$$\text{分野Aの特化係数} = \frac{\text{地域の分野Aの構成比率}}{\text{京都府全体の分野Aの構成比率}}$$

産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、丹後地域では、「漁業」が18.65と京都府平均より18.7倍も高くなっています。次に、「林業」、「農業」と続いており、第一次産業が丹後地域の重要な産業となっていることがわかります。

図6：京都府内 長寿人口特化係数ランキング



65歳以上の人口のうち、100歳以上の方が占める長寿人口の割合について特化係数でみると、京丹後市が1位、宮津市が3位、伊根町が4位、与謝野町が5位となっており、丹後地域は、ご長寿の方が多地域となっていることがわかります。

図7：人口の推移(中丹地域)

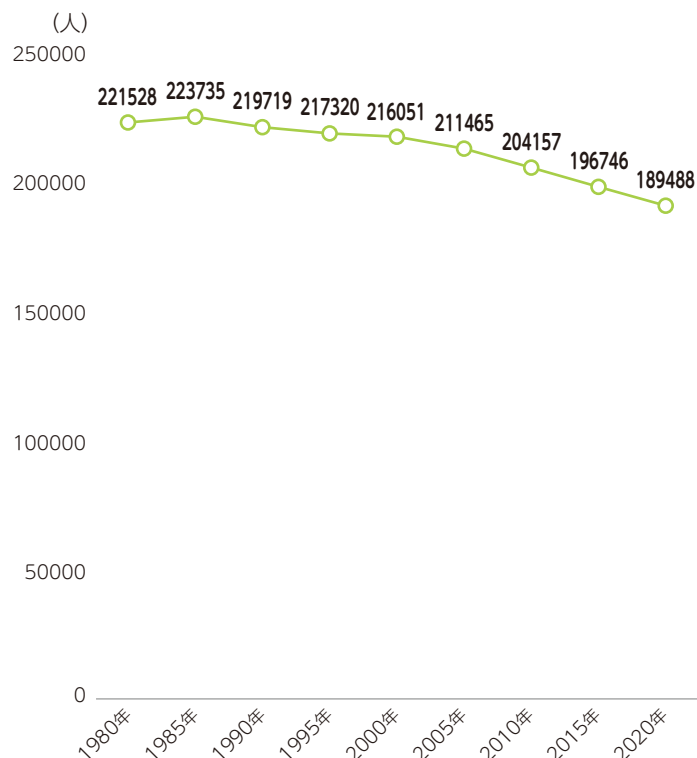


図8：産業別特化係数(中丹地域)

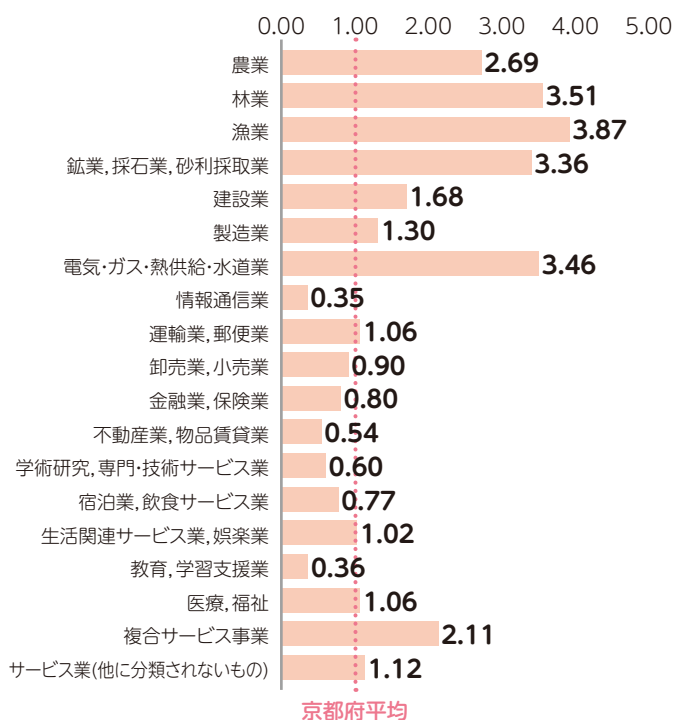
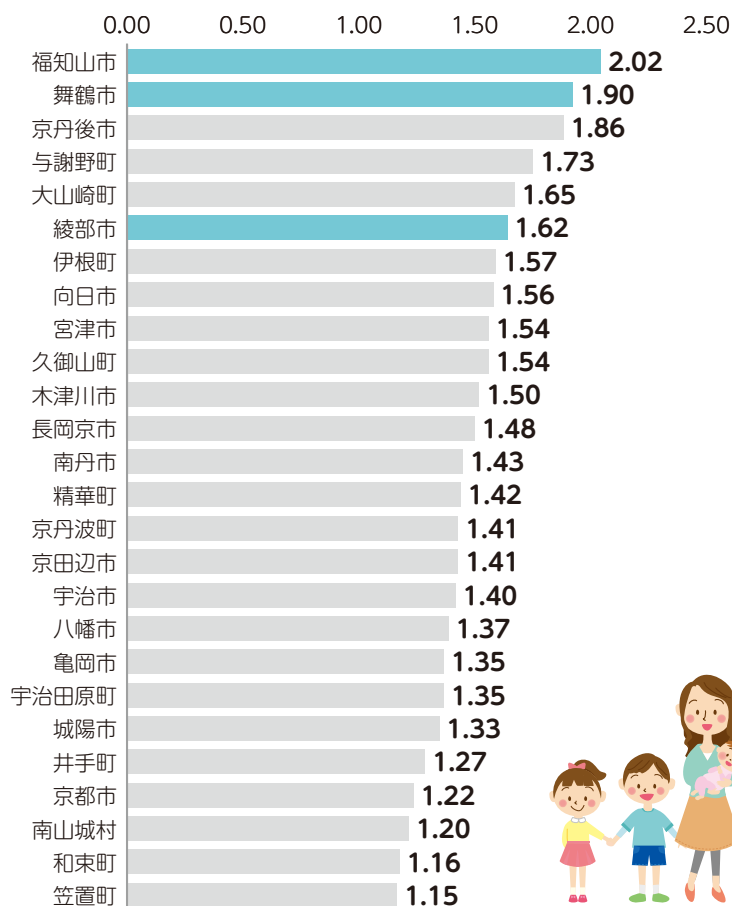


図9：合計特殊出生率(2013～2017年)



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「漁業」、「林業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」の順に高くなっています。

丹後地域と同様に第一次産業の特化係数が高くなっています。中丹地域の独自の特色としては、舞鶴市に発電所があるため、「電気・ガス・熱供給・水道業」の特化係数が高くなっています。

さらに府内の市町村別に合計特殊出生率をみると、福知山市が1位、舞鶴市が2位、綾部市が6位となっており、中丹地域は合計特殊出生率が高い地域であることがわかります。

合計特殊出生率

Keyword

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値。一般的に、一人の女性が一生の間に生む子供の数と解釈される。

出典：国勢調査(総務省)、経済センサス活動調査(総務省)を加工
人口動態統計特殊報告(厚生労働省)

図10：人口の推移(南丹地域)

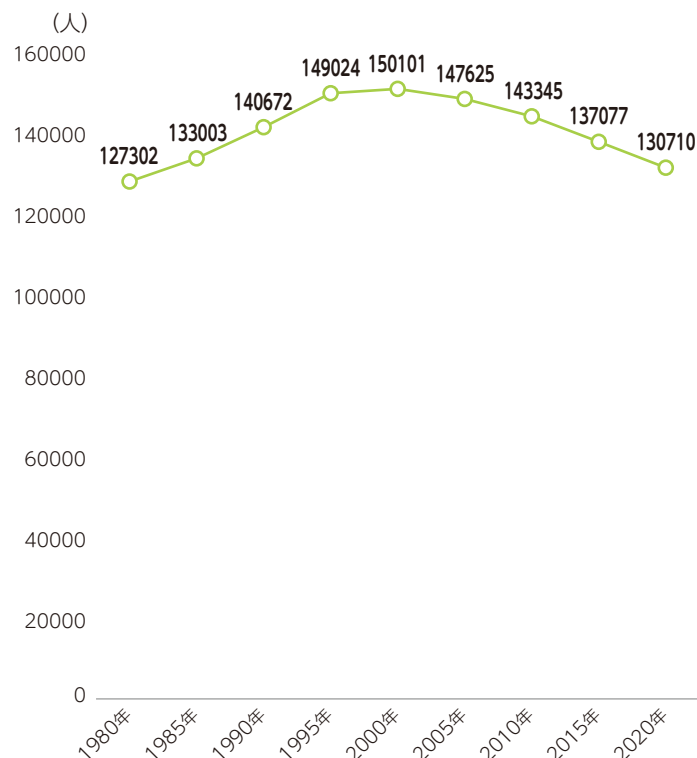


図11：産業別特化係数(南丹地域)

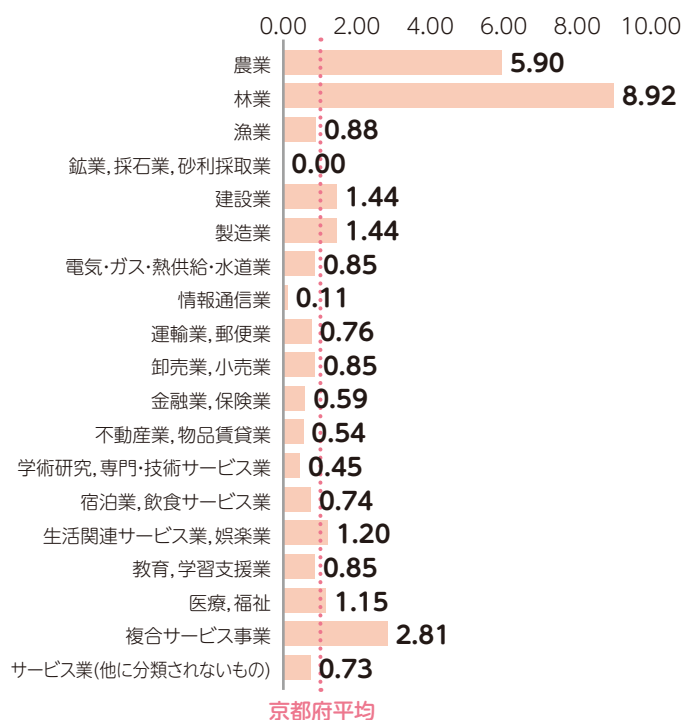
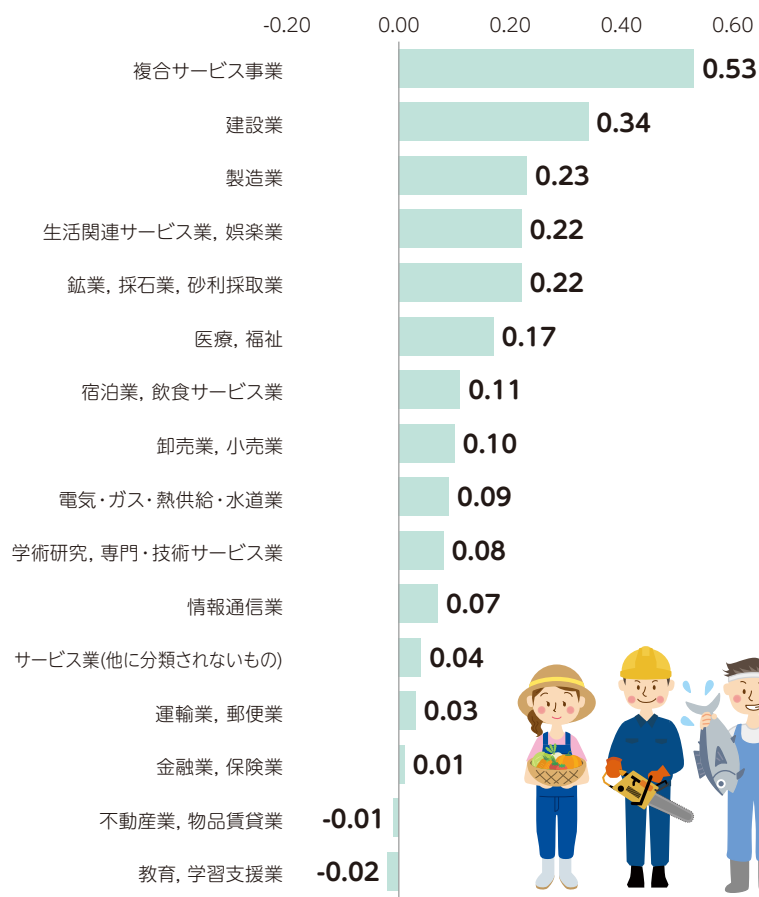


図12：農林漁業従業者数と各産業従業者数の相関係数



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「林業」、「農業」、「複合サービス事業」の順に高くなっています。

第一次産業の特化係数が高くなっており、特に「林業」が8.92と京都府平均より8.9倍も高くなっています。南丹地域において林業が盛んであることを反映していると考えられます。

農林漁業従業者数と各産業従業者数の相関関係をみると、「農林漁業」と「複合サービス事業」の相関係数は0.53と正の相関関係があることがわかります。これは、農林漁業が盛んな地域では、複合サービス事業の中に含まれる農林漁業の協同組合に従事する方が多くなる傾向があるためと考えられます。

図13：人口の推移(京都市域)

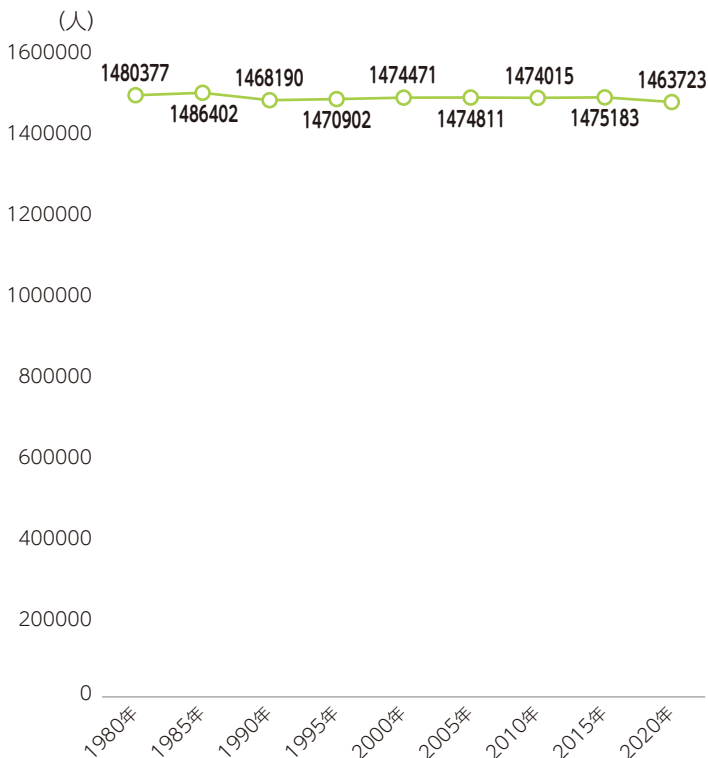


図14：産業別特化係数(京都市域)

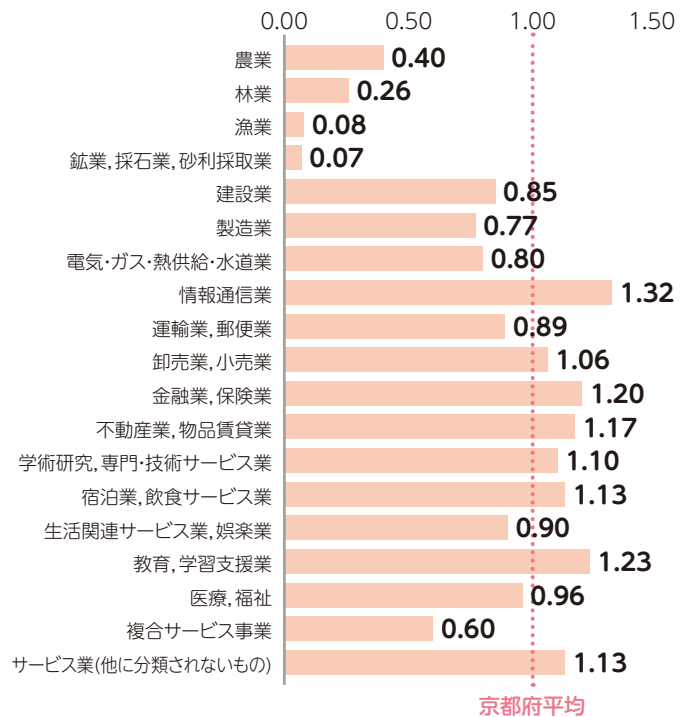
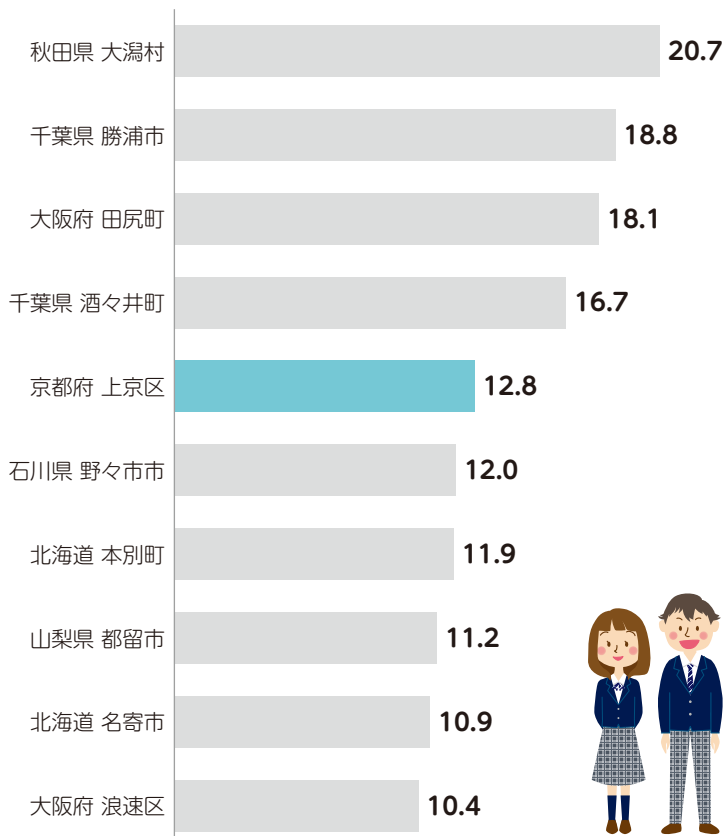


図15：15-19歳の社会増減率 全国ランキング(2020年)

単位：%



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「情報通信業」、「教育、学習支援業」、「金融業、保険業」の順に高くなっています。

第三次産業の特化係数が高くなっており、「情報通信業」、「教育、学習支援業」等で府内で1位となっています。特に、「教育、学習支援業」の特化係数が高いことについては、京都市が全国屈指の学生の街であることを示していると考えられます。

15-19歳の社会増減率について、全国ランキングをみると、京都市上京区は全国第5位となっており、全国から多くの学生等が流入していることが推測されます。

出典：国勢調査(総務省)、経済センサス活動調査(総務省)
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)を加工

図16：人口の推移(乙訓地域)

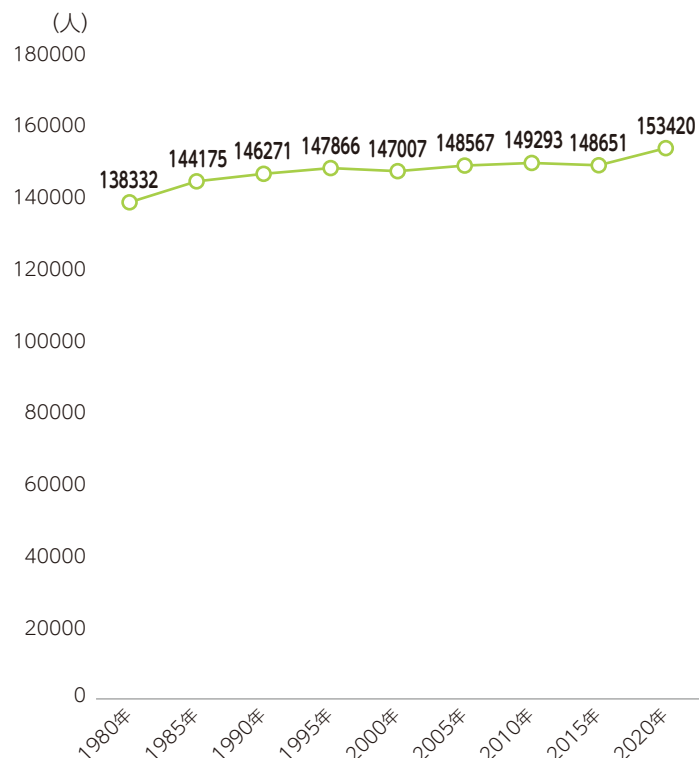


図17：産業別特化係数(乙訓地域)

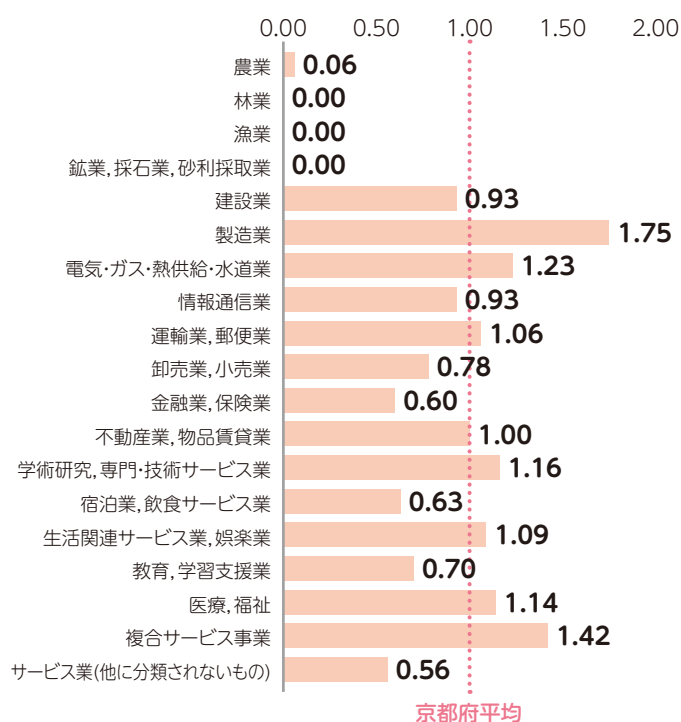
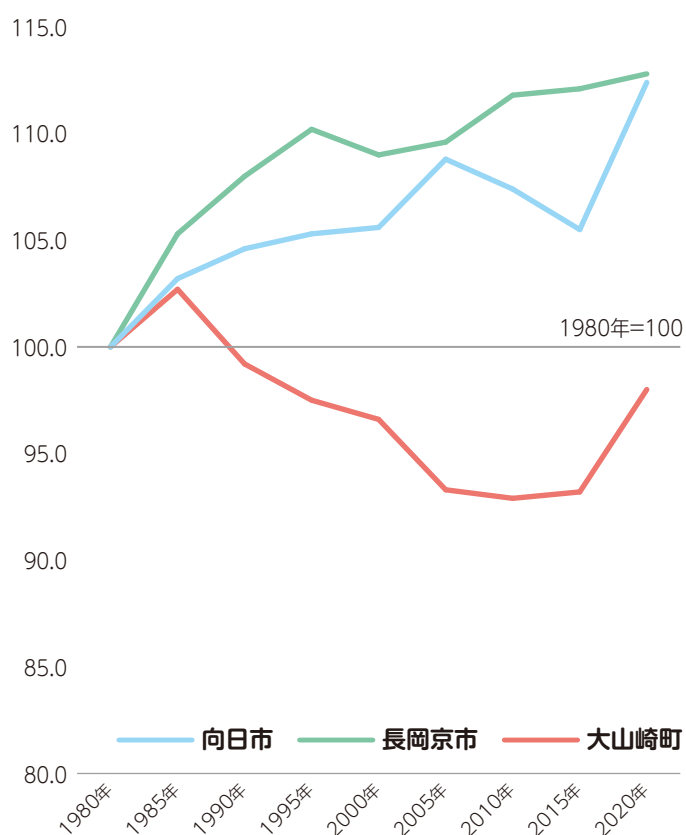


図18：乙訓地域の市町別人口推移(指数)



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「製造業」、「複合サービス事業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」の順に高くなっています。

特に「製造業」については、府内で1位となっています。これは乙訓地域において、複数の大手企業の本社や工場が立地していることが要因の一つであると考えられます。

向日市及び長岡京市においては、1980年を基準(100)として比較すると、1割以上人口が増加しています。大山崎町においては、2010年頃までは減少傾向だったものの、近年増加の兆しがあります。



出典：国勢調査(総務省)、経済センサス活動調査(総務省)を加工

山城北部地域

宇治市

城陽市

八幡市

久御山町

井手町

宇治田原町

図19：人口の推移(山城北部地域)

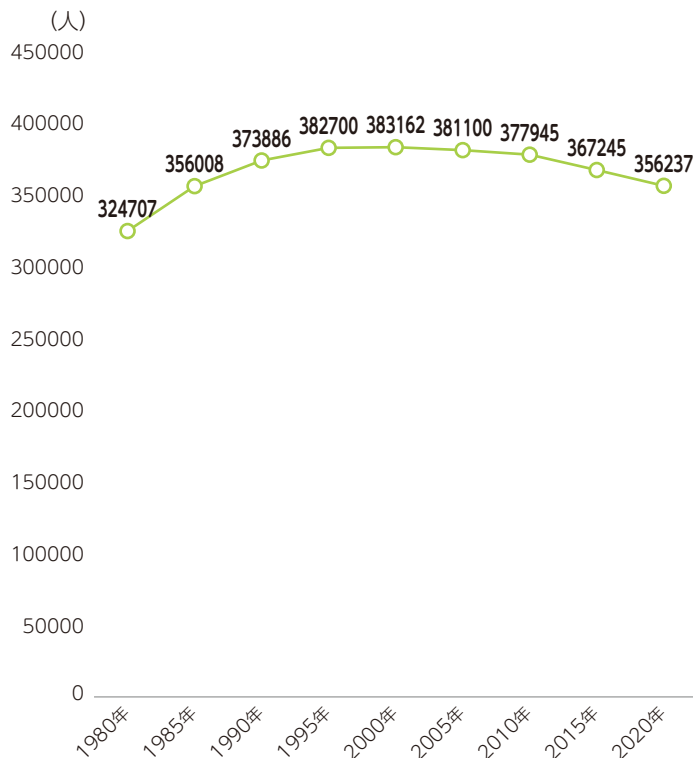


図20：産業別特化係数(山城北部地域)

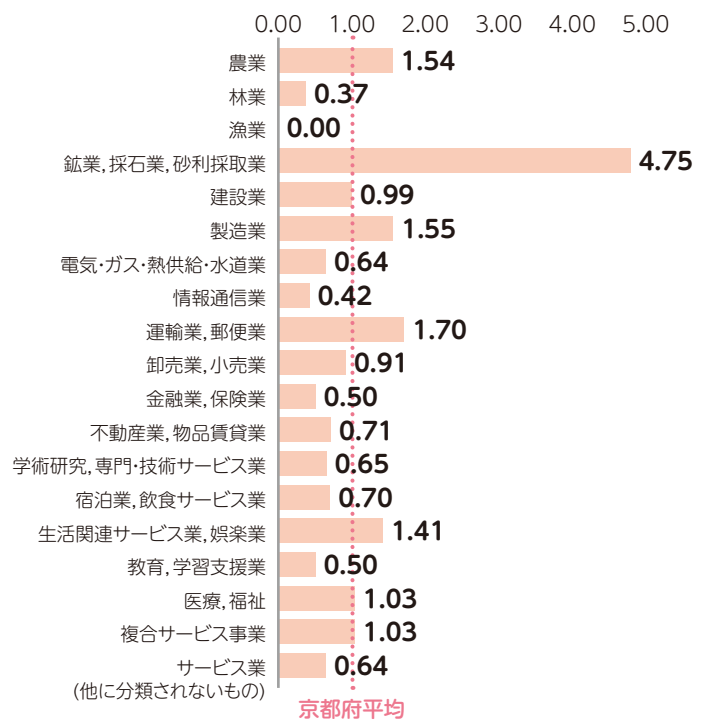
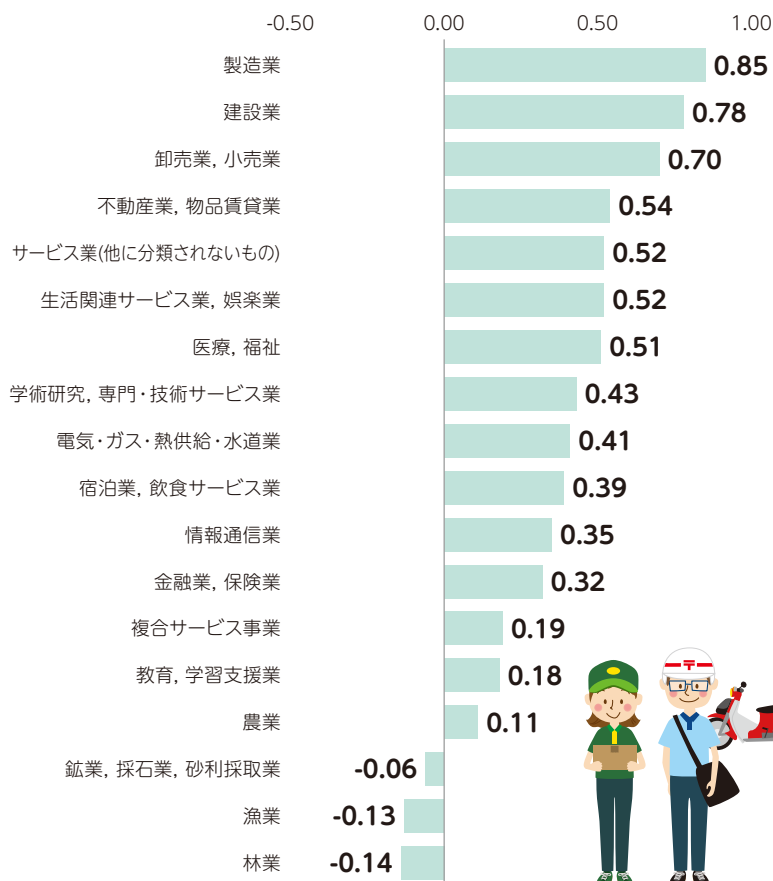


図21：「運輸業、郵便業」従業者数と各産業従業者数の相関係数



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「運輸業、郵便業」、「製造業」の順に高くなっています。

特に「運輸業、郵便業」については、特化係数で府内1位となっています。これは、複数の高速道路や国道1号線などの主要幹線道路が地域内を走っているなど交通の利便性が高いことが要因の一つと考えられます。

さらに、「運輸業、郵便業」従業者数と各産業従業者数の相関関係をみると、「運輸業、郵便業」と「製造業」の相関係数は0.85と、強い正の相関関係があることがわかります。これは、製造業において製造に必要な部材や完成品を輸送したりするケースが多いことに由来するものと考えられます。

出典：国勢調査(総務省)、経済センサス活動調査(総務省)を加工

図22：人口の推移(学研地域)

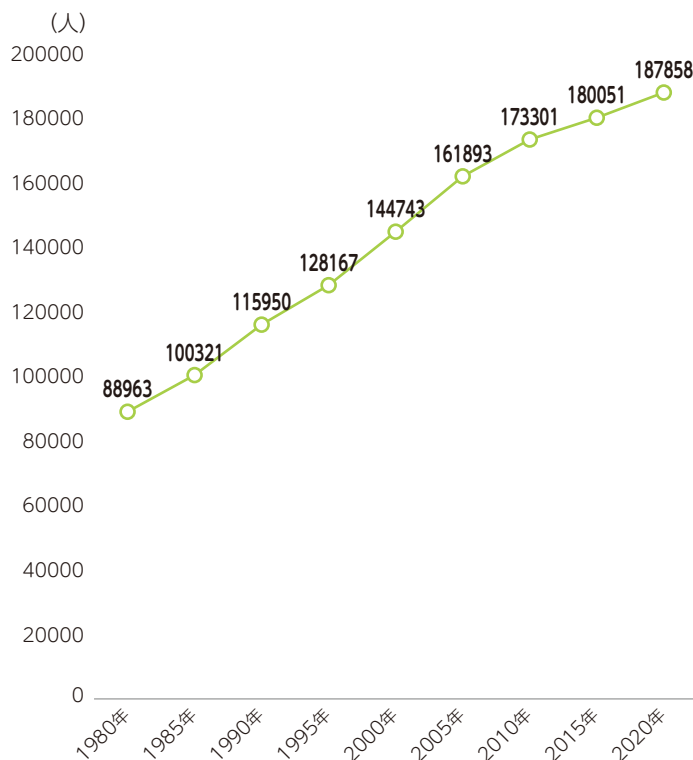


図23：産業別特化係数(学研地域)

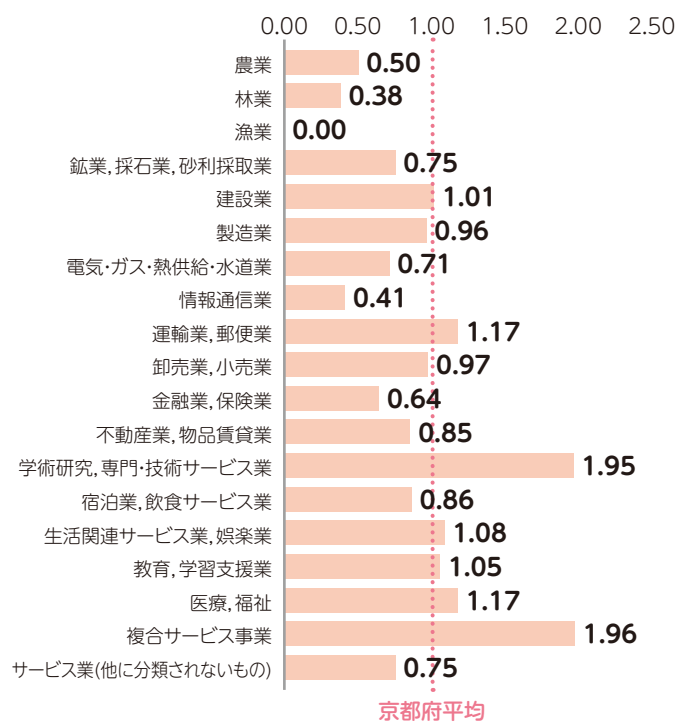
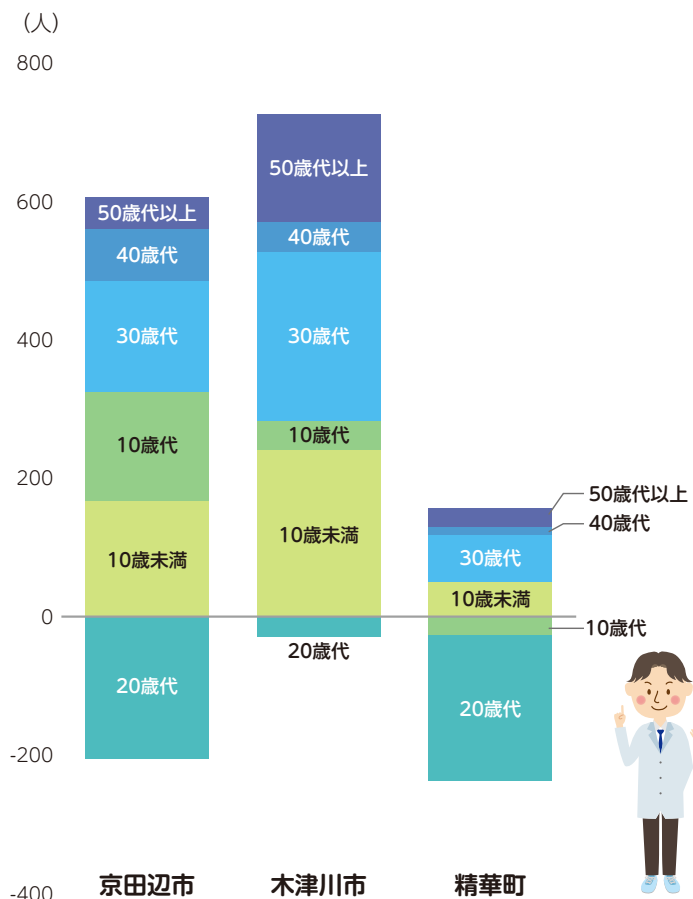


図24：学研地域の年齢階級別社会増減数(2021年)



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「複合サービス事業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「医療、福祉」及び「運輸業、郵便業」の順に高くなっています。

特に「学術研究、専門・技術サービス業」については、府内で1位となっています。これは大手企業をはじめとする様々な研究機関が学研地域に立地していることが要因であると考えられます。

学研地域では過去40年間一貫して人口が増加し続けており、2020年の人口は1980年の2.1倍となっています。足下では特に「10歳未満」、「30歳代」等の流入超過が人口増加の要因となっています。

相楽東部地域

笠置町

和束町

南山城村

図25：人口の推移(相楽東部地域)

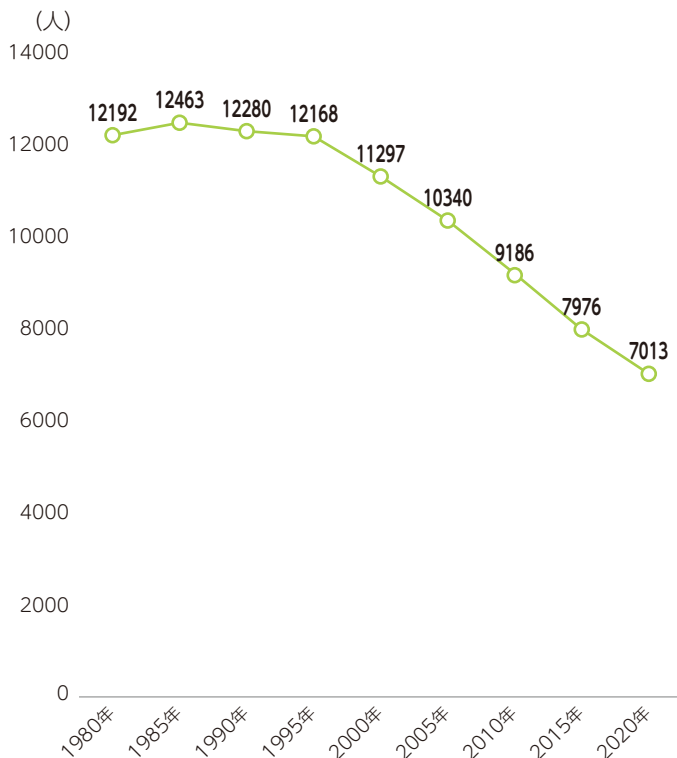


図26：産業別特化係数(相楽東部地域)

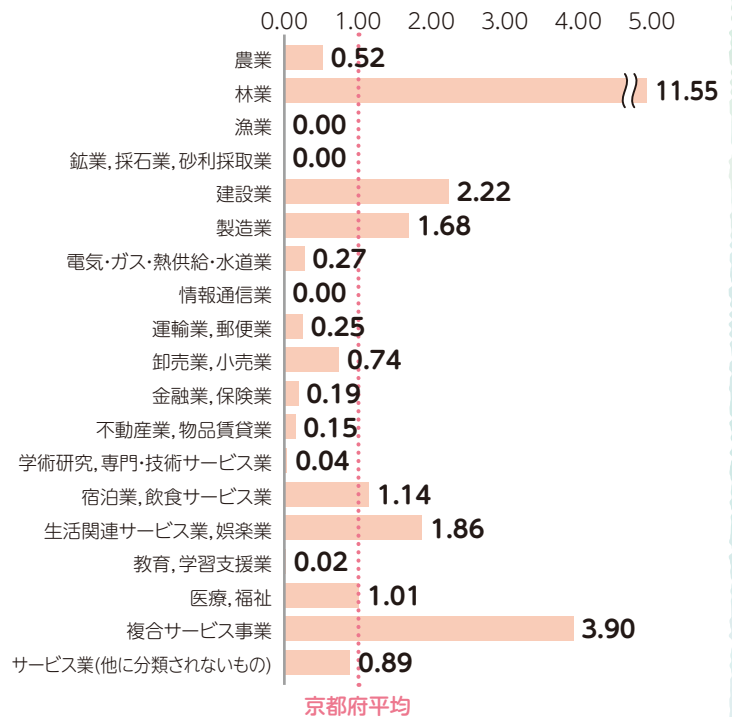
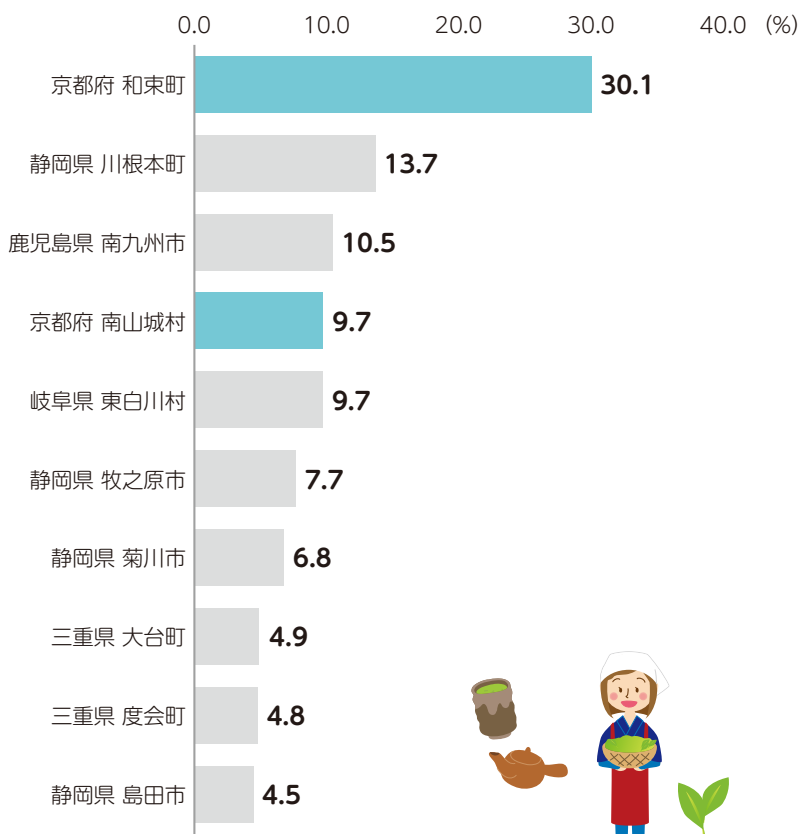


図27：「茶・コーヒー製造業」従業者割合 全国ランキング



産業別の特化係数で地域ごとの特色をみると、「林業」、「複合サービス事業」、「建設業」の順に高くなっています。

「製造業」の特化係数について、地域内では5位ですが、府内では2位となっています。

特に製造業の中の「茶・コーヒー製造業」の従業者数について、全産業の従業者の中に占める割合でみると、和束町が全国1位、南山城村が全国4位となっており、相楽東部地域における重要な産業であるとともに、全国有数のお茶の産地となっていることがわかります。





本冊子について

本冊子は、インターネット上から取得可能なオープンデータを用いて、数多くある京都府の特色の中から一部をピックアップして分析し、統計調査の重要性と有用性について発信するものです。

2022年3月発行
京都府政策企画部企画統計課